



第55回

オオワシの行方を追え

※2024年4月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

1 / 2

26年間にわたり、越冬のために琵琶湖を望む滋賀県長浜市の山本山に渡来する1羽の雄のオオワシ。山の名と「長寿」であることから「山本山のおばあちゃん」と呼ばれ、アイドル並みの人気を誇る。ファンの間で関心が高く、謎になっているのが、越冬を終えた後に繁殖地・カムチャツカ半島（ロシア）へ向かう北帰行の移動ルートだ。「推し活」ファンを募って大規模な追っかけ調査を行うアイデアも浮上している。

これまで北帰行のために山本山を飛び立ったオオワシの移動ルートは、いつも北約3キロの磯野山方向に飛んで行くという程度しか分かっていなかったところが昨年の北帰行で、山本山の北東約8キロに

ある峰を越えて岐阜方向へ飛ぶ姿を追っかけファンが目撃したほか、過去に岐阜県境近くを飛んでいく別のオオワシが見つかったことから、まずは真北に飛んでから東方向へ進路変えて岐阜県を抜けていくと予想された。

今年により具体的にルートを割り出そうと、湖北野鳥センター（同市）職員の池田昇平さんが、北帰行が見込まれた2月30日、北の福井方面と東の岐阜方面の両ルートを見渡せる同市余呉町の林道赤子線終点で張り込んだ。

午前10時26分にオオワシが山本山を飛び出すと、連絡を受けた池田さんが調査を開始。同44分にオオワシが山本山の北約6キロにある賤ヶ岳を西側から時計回りに回

り込み、山の影に入ると、山本のふもと近くにあるセンターから姿が見えなくなった。その直後、池田さんが賤ヶ岳南西から北上するオオワシを発見。オオワシはしばらく旋回して上昇した後、調査地点の西側を通過して再び北に向かった。

更にそこから6キロほど北で、おっかけファンが福井県境寄りにある七々頭ヶ岳ななずがたけの西側を北向きに飛んでいくオオワシの姿を目撃した。

今回の調査結果は、3月にセンターで開かれた「山本山のオオワシファンミーティング(OMF)」で発表された。今まで知られていなかった姿が見えなくなった後の足取りとあって、参加者らは身を乗り出したり、「オー」と声を出して熱心に発表を聞いていた。池田さんは「このまま北に向かう可能性が高い。福井県境で調査してもいかもしれない。協力をお願いします」とファンに追っかけを依頼し、笑いを誘った。

福井か、岐阜か。謎は深まるばかり。センターは来季、「おばあちゃん」が帰るまでにOMFを開いて追っかけファンを募集する考えだ。ファンの力を借りて、福井県境や岐阜県境で通貨調査を実施し、おばあちゃんの帰り道を探りたいとしている。